

七条中学校だより10月3号

京都市立七条中学校

令和8年10月5日

発行：校長 林 秀雄

七条中学校創立 70 周年を迎えて

いよいよ明日、七条中学校創立 70 周年記念式典と七中祭オープニングが行われます。

創立 70 周年という節目を迎えられるのは、決して今ここにいる私たちだけの力ではありません。これまで 70 年の長きにわたり、七条中学校を支えてくださった多くの方々の努力と願いがあったからこそ、今日の七条中学校があります。

明日の記念式典には、教育委員会をはじめ、歴代 PTA 関係者の皆様、地域の自治連合会の皆様、下京区長様、下京警察署長様、地域施設の皆様など、これまで本校の教育活動を支え、見守ってくださった多くの方々にご参列いただきます。皆様は、七条中学校の 70 周年を共に祝い、生徒の皆さんの姿を楽しみに来てくださいます。

学校は、生徒と家庭、そして教職員だけで成り立っているわけではありません。地域の方々、関係機関の方々、多くの卒業生や保護者の皆様など、数え切れないほどたくさんの方々の支えによって成り立っています。私は、この 70 周年記念式典を通して、皆さんにそのことを改めて知ってほしいと思っています。そして、これまで七条中学校を支えてくださった方々への感謝の気持ちを持ちながら式典に臨んでほしいと思います。

式典の中では校歌を斉唱します。七条中学校の歴史と伝統、そして先輩方から受け継がれてきた思いを感じながら、心を込めて歌ってください。その歌声が、ご来賓の皆様への感謝の気持ちとなり、70 周年を祝う何よりの贈り物になるはずです。

一方で、七中祭のオープニングは、式典とはまた違った時間になります。厳かな式典で感謝と伝統を感じた後は、七中生らしく皆さんのエネルギーを存分に発揮するときです。これまで準備してきた成果を仲間と共に表現し、七中祭のスタートを力強く盛り上げましょう。元気なあいさつ、仲間を応援する声、全力で楽しむ姿、挑戦する気持ち。そのすべてが七条中学校の魅力です。

明日は、70 年の歴史を振り返る日であると同時に、これからの七条中学校の新しい歴史をつくる日でもあります。感謝の気持ちを胸に式典へ。そして、七中生のパワー全開で七中祭オープニングへ。七条中学校の 70 周年にふさわしい、一人ひとりが主役の一日にしましょう。

地下 80m のタイムカプセル 地下に眠る何十万年の歴史

創立 70 周年特集です。これまで学校の歴史や校歌、校章について紹介してきましたが、今回は少し視点を変えて、皆さんが毎日立っている「学校の地下」に目を向けてみたいと思います。

皆さんは、七条中学校の地下には何があると思いますか。森田先生が校内で七条中の地質標本の箱を見つけました。その箱には 10 個の瓶があり、それぞれ地下 80m 砂混り粘土・地下 70m 砂礫・地下 63m 砂混り粘土・地下 52m 砂礫・地下 45m 砂礫・地下 35m 粘土・地下 20m 砂礫・地下 15m 粘土・地下 10m 玉石混り砂礫のサンプルが入っていました。現在の校舎を建築する際に行われた地質調査によると、地下には砂や石の層、粘土の層が何重にも重なっていることが分かりました。

地下 10m 付近には「玉石混り砂礫層」と呼ばれる、大きな丸い石を含む地層があります。その下には粘土層や砂礫層が何度も繰り返し現れ、地下 80m まで調査しても岩盤は確認されませんでした。

なぜ、このような地層になっているのでしょうか。

これらの地層は、一度にできたものではありません。京都盆地を流れる川が何万年、何十万年という長い年月をかけて運んできた砂や石、土が少しずつ積み重なってできたものだと考えられています。

川の流れが速い時代には砂や礫がたまり、流れが穏やかな時代には細かな粘土がたまります。そしてまた川の流れが変わり、新しい砂や礫が運ばれてくる。その繰り返しが、現在の地下の地層をつくり上げたのです。

特に地下 10m に見られる玉石混りの砂礫層は、昔、この付近に流れの速い川があった可能性を示しています。もしかすると、はるか昔の七条中学校付近には、現在とは異なる川の流れや風景が広がっていたのかもしれない。

ここで、もう一つ興味深い事実があります。実は、七条中学校の敷地内には井戸があります。

井戸から水をくみ上げることができるのは、地下に水を通しやすい地層が存在するからです。地質調査で確認された砂礫層は、雨水や地下水を蓄えたり流したりする役割をもっています。地下に幾重にも重なる砂礫層は、まるで大きなスポンジのように水を蓄えているのです。

裏へ

では、その井戸の水はどこから来るのでしょうか。雨として降った水が地面にしみ込み、何年、あるいは何十年もの時間をかけて地下を流れながら蓄えられたものかもしれません。その水は、私たちが生まれるずっと前から地下を流れ続けている可能性もあります。

そう考えると、学校の井戸は単なる「水をくみ上げる設備」ではなく、京都盆地の自然と歴史を今に伝える「生きた教材」と言えるのではないのでしょうか。

ここで皆さんに問いかけます。●地下 10mにある大きな玉石は、どこから運ばれてきたのでしょうか。●何十萬年前の七条中学校付近には、どのような景色が広がっていたのでしょうか。●学校の井戸の水は、どれくらい前に降った雨がもとになっているのでしょうか。●京都盆地は、これから先どのように変化していくのでしょうか。

探究とは、「なぜだろう」「不思議だな」という問いをもち、その答えを自分なりに調べ、考えることです。

私たちは、つい目の前のことだけを見がちです。しかし、足元に目を向けると、そこには何十萬年にもわたる京都の歴史が刻まれています。創立 70 周年の七条中学校の歴史も、その壮大な時間の流れの中にある一場面に過ぎません。

皆さんが毎日学んでいる校舎の下には、川が運んだ石や砂、静かな水辺で堆積した粘土、そして今も流れ続ける地下水があります。

ぜひ一度、自分たちが立っているこの場所を見つめ直し、「七条中学校の地下にはどんな歴史が眠っているのだろう」と考えてみてください。探究のテーマは、実は私たちのすぐ足元にもあるのです。